



經子史要覽

下

四十三
卷三

服部文庫
117
285
2





經子史要覽卷之下

祖徠先生口授 門人 竹溪平義質子彬筆受

河陽森 直元方考訂

子要覽

總論

子類ノ書最博洪ナリ。唐四庫ヲ建テ、一ハ經書ヲ蔵メ、
一ハ子類ヲ蔵メ、一ハ歴史ヲ蔵メ、一ハ集類ヲ蔵ム。コレ
ヲ經子史集ノ四庫ト稱ス。子類ニ又別アリ。孟荀揚

ナトヲ儒家ト名ク。老莊列ヲ道家ト名ク。管晏ナトヲ雜
 家ト云ヒ。韓非申鑒ナトヲ刑法家ト云。孫子吳子ナトヲ
 兵家ト稱ス。コレヲ子ト名ツクルハ。孟子ハ孟子ノ言
 ヲ載テ傳ヘ。老子ハ老子ノ道ヲ載テ傳ヘ。管子ハ管子ノ
 道ヲ載テ傳フルニナリ。詳ナルハ予孫子國字解ノ卷
 首ニ辨析セリ。考互スヘシ。世ニ十三子ト稱スルハ。老子莊
 子。列子。墨子。管子。晏子。孟子。荀子。楊子。文中子。孔叢
 子。韓非子。淮南子等ナリ。コレノ外ニ抱朴子。申子ナト、

後世ノ子類少ナカラス。予少キヨリ。コレヲノ書ヨリ。百家衆
 伎ノ書。釋氏諸家ノ書マテヲモ講究シ。コレヲ通雅丹鉛
 録。典籍便覽。文海披沙ナトノ書ニ考ヘ。初學ニ便ナルヲ
 示ス。學ハ唯博ヲ貴フ。古今ヲ通會セシ。博學ニ非スニハ
 能ハス。今予カ初學ニ先讀ミシムル者ハ。管晏老列莊孟
 楊荀ナトナリ。墨子ヲ讀スニハアルヘカラサル者ナリ。次ニ
 韓非子ナリ。コレヲノ書。自ヲ一家ノ機杼ヲナシテ。道ハ
 各異ナリトイヘ。凡イマタ古言ヲ失ハサル時ノ作爲

三シテ儼然タル古文辞ナリ。其辨經要覽ニ出セル如シ。世ノ
 道學先生。性理ノ學ニ沈溺シテ。既ニ痼疾トナリ。博ク書ヲ
 讀ムコトヲ嫌フ。故ニ古文辞ヲ曉諭スルコトアタハス。安ニ排擯シ
 テ用ヒサル者。皆小量ノ局見ト云ヘキナリ。凡博ク群書
 ヲ讀ムニ。我見一定ナク。常ニ彼此ニ惑フテ。泛然タラハ。
 懸空ノオトナリテ用ニタハス。故ニ孔子ノ道ハ。青天白
 日ノ如クナレハ。老莊揚墨ヨリ以下。諸子百家ノ道アリ。凡
 爭テカコレニ旗鼓ヲ對スヘキヤト見ヲ定メ置。孔子スラ

信而好古ト宣ヘリ。況マ後世ノ學者ヲマ。トカク信セカレ
 ハ其益ヲ得ルコトナシ。篤信好學ト論語ニアル如ク。孔子ヲ
 信スルコト篤クシテ。ソレヨリ群書異道ノ籍ニ涉ルトモ。其
 見惑フコトナシ。孔子ヲ信セハ。唯六經論語孝經ヲ熟讀
 シテ。後世ノ俗儒カ註解ヲタノマス。只本文ニ就テ。其旨ヲ
 求ムヘシ。其中ニ禮樂等ノ名物度數ハ。註ニ依ラズシテハ
 叶ハス。註ハ爾雅ヲ本トシテ。漢儒ノ說ニ從フヘシ。漢儒ノ
 注註ニモアマリアレ。凡十二七八八。孔門七十子ノ傳

授ノ説ナレハ信セスハアラス。其知見ヲヒロメ古書ヲ知シ
 カタメニハ羣書ヲ涉獵スヘキヲ。尤肝要ナリ。韓退之カ
 語ニ業精于勤トイヘリ。學問ハ口ク相ワタラ子ハ益ニ
 立スト知ルヘシ。管子晏子老子ナト。其道ハチカヘトモ。
 コレヲ道ニ求テ可ナリ。老子ノ三十九章ニモ數車無
 車ノ説ヲ載ス。誠ニ然リ。車ハ總名ニテ。輪輻蓋軫ナ
 ド。段々ニノケテ見レ。皆チリグニナリテ。其トキハ車
 ト云モノハ無キナリト云フコ。口先王ノ道ニカナヘリ。聖人

ノ道カクノ如ク。禮樂刑政ナドヲ。統テ道ト名ツケタルモノ
 ナリ。老子モ道德ヲ云トキニハ。又名目ヲ分辨スルヲ明ナリ。
 聖人ノ傳説イマダカハラヌ世ノコロノ書ナレハ。隨分ニツト
 メテ讀ムヘシ。道ノ不同ハカマハヌヲナリ。辭ノ古ナルヲ則
 トシテ引合セテ聖經ヲ徵スルナリ。予嘗テ學則一篇
 ヲ著ハシテ。コレヲ詳論セリ。子類ニ多品アレ。先其古
 文辭ノ書ヲ擧テコ、ニ記ス。猶其他ニ至リテハ。學士
 ノ見ニヨルノミ。

孟子

孟子七篇三萬餘言。ミナコレ孔子ノ道ヲ羽翼スルノ書ナリ。然レ凡其言激昂ニシテ、二ノ失アリ。孟子ノ時ハ、楊朱墨翟カ徒、各天下ニ横行シ、邪說天下人ヲ惑ハス。孟子コレヲ闢カントス。故ニ新奇ノ說ヲ立テ、性善ノ說ヲ主張シ、人ト爭ヒ、旗鼓ヲ對スルユヘ、負ミシト思フ心ヨリ、イロクト辯ニカセ、終ニ無理ヲ言フコレ一失ナリ。又孟子ノ時ハ、諸侯一人トシテ凶惡ナラサルハナク、各攻伐戰

爭ニ薰習シ、民ヲ暴殺シ、舊典ヲ毀斥シ、互ニ驚駭ニシテ、先王ノ道ヲ信シ用ユルモ一人モナシ。其事呂氏春秋ニ出タリ。齊宣梁惠ナト。孟子ヲ招キ相見ル時ニ、孟子コレヲ吾道ニ強テ引入セシトヲ思ヒ、先其心ヲ悅バシメ、爲ニ非理ノ言ヲ云ヒ、人ヲスム。其言往々不通ノ論アリ。故ニ孔子ノ道ニ相背ク。是ニ失ナリ。孟子一部、コノ二失アル所ハ、悉ク非ナリトス。其他二人ト較ハズ、只先王孔子ノ道ヲ直ニ說キシ處ハ、正當ノ論多シ。予孟子刪ヲ選ヒテ、其言

ヲ萃ス。畢竟孟子大豪傑ニテ。戰國ノ弊風ヲ悲ミ。コレヲ
 矯メシ。コレヲ欲シ。俗ヲ憤ル心フカシ。故ニ立言必過失多キナ
 リ。サレバ戰國暴戾ノ世ニ處シテ。カク暴主辯士ヲ對頭
 トシ。孔子ノ徒タラシ。コレヲ欲スル。ハ豪傑ニ非スシテハ能ハス。
 韓退之カ功不在禹之下ト云ヘルモ。虛妄ナラス。又孟子
 醇乎醇者也。荀與楊大醇而小疵ト稱ス。予孟子荀楊ノ
 三子ヲ考ルニ。孟子ハ全體ノ器量カ勝レタリ。道ヲ論スル
 處モ。孟子ハ孔子ヲ去ル。遠カラス。故ニ正當ノ明論多シ。

書ヲ著スモ。孟子ノ文章ハ荀子揚子ヨリハルカニ昧レタリ。
 其事子弁髦編ニ示ス。然レハ韓退之モ進學解ニハ孟子
 軻好辯。孔道以明。轍環天下。卒老于行。荀卿守正。大
 論以興。逃讒于楚。廢死蘭陵。是ニ儒者吐辭爲經ト
 カキテ。孟ト荀トヲ同儕ニ並ヘ。又張藉ニ答ル書ニハ。夫
 子孟軻楊雄之所傳之道也ト連子タリ。コレヲ以テ考
 レハ。退之アナガキニ孟子ノミヲ信シタルニ非ス。利器ヲ稱
 シ。文章ヲ以テ醇乎醇者ト云ルナルヘシ。利器ハ必深入ス

ルモノナリ。孟子ハ大豪傑ナルヘユニ大醇大疵ト云ヘシ。利
又ノ深入シタルナリ。性善也ト云ルモ皆老子ノ徒ニ抗セシ
語ニシテ實論ナラス。老子ノ徒天地ニ本来大道ト云
モノアリ。人ハ其大道ヨリ生レ出テ性ニ大道ヲ具ス。故
ニ仁義ト云フモナク。禮樂ト云フモナシ。仁義ハ外ヨリ
附タル者ナリ。禮樂ハ人ノ偽ナリト説ク。故ニ孟子コレヲ
破ラレフヲ欲ジテ。仁義禮智ハ心ニ本来アルモノナリト
説テ。人ノ性ハ善ナリ。惡ハナキナリト。卒忽ニ言出タル

理窟ニテ。後世宋學ノ根本ナリ。故ニ荀子ハ非孟子ヲ作
リテコレヲ毀斥ス。後漢ノ王充ハ論衡ヲ著シテ孟子
ヲ刺リ。刺孟篇ニ口ヲ極メタリ。後世孟子ヲ非議スル
モノ少ナカラス。宋人ニハ司馬溫公疑孟ヲ作ルソノ他
詆孟刪孟ナトノ書。山ノ如クアリテ皆至當ノ顯然タル
説ナリ。詳ニ孟子刪ノ總論ニ見ハス。孟子ヲ尊信スル者
ハ後漢ノ趙岐孟子ノ註ヲナス。宋ノ孫奭正義ヲ作り。
孟子ヲ經書ニ列シテ。十三經ニ入ル。其後程子兄弟又

孟子ヲ信シ尊フテ聖人ノ如ク。論語ト耦稱シテ論孟ト稱ス。朱子モ集注ヲ作り。論語學庸孟子ヲ加ヘテ四書ト稱シコレヨリ其徒皆尊崇聖人ニ過タリ。我邦ノ伊藤先生モ宋儒ヲ刺撃スレバ孟子ヲ信スルハ宋儒ヨリモ過タリ。孟子古義語孟字義ヲ著ス畢竟本文ノミニテ能クワカルナリ。其外ニ解説ナスハ空論ト云フナリ。決シテ用ユヘカラス。

荀子

荀卿カ書勸學篇ヨリシテ次第ニ詳論シ性惡篇又著スコレ孟子ノ性善ノ説ヲ矯ントスルナリ。コレ又老子ノ徒ニ抗スルモノニテ老子ヨリ人ノ仁義ヲナスハ皆偽ナリト云ニ應ヘテナルホト仁義ハ偽ナリ。人性ハ本惡ナリ。惡ナル証據ニハ人ゴトニ善ヲナスニハ嬾ク不善ニハ進ミ易シ君子ニハナリ難ク小人ニハナリマスシ然レモ性惡ノニテ舍置ケハ天下治マラス。故ニ聖人礼義ノ教ヲ立テ天下人人ヲ導キ玉ヒ。自然ト風俗ノ

薰陶ニテ惡ヲ變ジテ善人トナルタトハ青キ色ヲハ
 藍ニテ染レ凡幾入モ重染スレハ藍ノ本色ヨリモ色カ
 深クナルト青出於藍青於藍ト云言ヲ開卷ニ出シ人
 モ習ハシニ由テ生レツキヨリモ賢クナル君子ニナルモアリ
 小人ニナルモアリ然レハ人ハ教ルト學フト習フトノ三ツガ
 ナクテハカナハヌ道理ナリ老莊ノ教ノ如ク生レタルハニ
 テ一向ニ手ヲツケスシテハ天下治マラスナリ先學フト
 習フト教ルトノ三ツニテ善人ニナルハト首ニ觀學篇

ヲ著スコレラ言ツノリテ終ニ性惡篇ニ及ヘリ荀子モ英
 傑ニテ性ニハ拘ハラス教學ヲ主意トスルナレハ非ナル意旨
 ニアラス子思カ率性之謂道ト云ヒ孟子カ性善也ト云
 説ヲ矯ルトテタメスキテ又背ヘ枉リタルナリ善ト惡ト
 ノ説ハ違ヘトモ聖人ノ旨ニ背ケルトコロハ孟子モ荀子
 モ同等ノ罪ナリ孟子ハ是ナリ荀子ハ非ナリト云
 フ者ハ亦非ナリ斯ノ如ク眼ヲキハメテ然後ニ荀子
 ラ熟覽スヘシコレ其要訣ナリ○荀卿ハ趙ノ人ナリ

楚ノ蘭陵ノ令トナリ。數萬言ヲ著ハス。名ハ況ト云。
 卿ト稱スルハ。時ノ人コレヲ尊ヒテ號ケシナリ。傳史記
 ニ見ユ。荀子ノ文章古文辭ニテ。往々艱澁解シ難キ
 處アリ。楊倞カ注モ佳ナレ。詭誤多シ。其他荀子ノ
 注解。僅く多カラス。予讀荀子ヲ著ス。備考ノ具ト
 ナスヘシ。

楊子

楊雄字ハ子雲。前漢ノ英傑ナリ。楊子法言太玄經

楊子方言ヲ著ス。法言太玄ノ二書ハ。大抵論語ノ格ニ
 效フテ作レリ。讀スニハアルヘカラス。其中ニ孟子ノ性善。荀
 子ノ性惡ノ說ヲ矯ント。人之性也。善惡混スト云ヲ主
 トシテ述タリ。コレ孟荀ノ二家ヲ合セテ一ツニシタル論
 ナリ。人之性ニハ善ノミニテ惡ナキモアリ。惡ノミニテ善ナ
 キモアリ。天下ノ人皆善ト惡ト混同ノ性ノミアルヘキコ
 ナシ。故ニ楊子カ說亦非ナリト知ルヘシ。楊子ハ文章駁
 發ニシテ。前漢ニ一家ヲ立テシ儒者ニテ。天下ノ豪傑々

リシテ。漢書ニテ觀ルヘシ。法言ノ注ハ。唐ノ柳子厚ナリ。宋ノ司馬溫公コレヲ補注ス。方言ハ。諸國ノ方言ヲアツメ。物等ヲ辨セシ書ナリ。今テ子類ニ用ユルハ。法言ナリ。

老子

性偽也恐有脫誤

史記ニ老子ハ楚ノ苦縣厲鄉曲仁里ト云所ノ人ナリ。姓ハ李氏名ハ耳ト云。字ハ伯陽。聃ト謚ス。老子上下篇ヲ作ルト云ヘリ。道德ト云フヲ主トシテ述タリ。畢竟聖人ノ道ニ反セシ教ナリ。人ノ性ハ偽ナリ。仁義ハ假ナリ。イ

口ト偽ヲ教ルユヘニ。本性ヲ傷害ス。本性ノニテ。少シモ手ヲツケヌトキハ。道德ヲトリ失ハヌト云フヲ主トス。其論面白キヤウナレ。無益ノ空言ナリ。其辯嘗テ二辨ニ出ス。老子古文辞ニテ解シ難シ。王弼コレヲ註ス。看ルヘシ。老子ノ末流多シトイヘ。皆禪子ノ醒悟ノ言ヲ混雜ス。故ニ古ヲ得ス。中ニ於テ。林希逸カ。口義ハ。妄說杜撰。太々多シ。必用ユヘカラス。

莊子

莊子名ハ周ト云。楚ノ蒙ト云所ノ人ナリ。著書三十二
 篇アリ。太氏老子ト其意大同小異ナリ。コレ真ト云フ
 一ヲ主トシテ。人ハ生レノ一ニテ教モナク。本然ノ性ノ一
 二ニテ手ヲツケス。心ヲ大道ニ遊ハシメ。世ノ仁義禮樂ニ
 拘ラス。老子ノ無為ノ如クセハ。苦シキ一モナク。安樂ナ
 ルヘシ。此ノ如キ人ヲ真人ト云トイヘルガ。莊子ノ主意
 ナリ。関卷道遙遊ニテ考フヘシ。齊物論ハ其意ヨリ説
 キ入レシ者ナリ。此二篇ハ莊子ノ手ニ成リテ。其他ノ篇ハ

皆其徒ノ追作ナル一。先輩モ論シ置レタリ。其文篇ゴトニ
 用筆大ニ異ナルアリ。明ノ楊用修カ丹鉛總録ナトニ見
 ヘタリ。莊子カ文ハ高簡ニシテ妙ヲ極メタリ。其事弁
 髦編ニテ知ヘシ。今テコ、ニ略ス。莊子ノ注家古今尤多シ。
 郭子玄カ注甚可ナリ。讀マスハアルヘカラス。注疏ハ夕
 ワイモナキ者ナリ。林希逸カ注ハ家言ノ禪意ニテ本
 旨ハサトシ難ク。古文ノ法ヲ解ク一杜撰ナリ。其他三注
 大全莊子翼註莊子符墨ナト云注書アリ。近年華本

舶来セシ中ニ莊子因ト云フアリ。林三山カ撰ナリ。能ク
文章ヲ析論セリ。學者郭注ヲ讀ミ。加ルニ陸德明カ
音義ヲ以テシ。旁莊子因ニテ考ヘナハ其辞ヲ領解シ得
シ。必セリ。予文野ニ略其事ヲ示ス。今テハ贅セス

列子

コレ老子ト同意ノ書ナリ。莊子ヨリ前ノ書ト云フ。予
考ルニ其文莊子ヨリ後ノ筆ト見ユルナリ。少シ劣ル
處アリ。然レ庄列雁行シテ。其雋ハ相似タリ。史記ニ列

禦寇ノ傳ナシ。注家多シトイヘ。晋ノ張湛字處度カ注
大ニ可ナリ。大氏文中後人ノ補入セシトコロアリ。文人
ハ味フテ知ルヘキナリ。又劉向カ序アリ。コレ又後人
ノ擬作ナリト知ルヘシ。唐ノ玄宗皇帝列子ヲ稱シテ
冲虚真人ト云。宋ノ眞宗皇帝至德ノ二字ヲ加ヘテ。
コノ書ヲ冲虚至德眞經ト追稱ス。列子ニモ林希逸
カ口義アリ。尤不出来ナリ。唯張注ヲ可トス。其是非
ヲワカツハ。學成ルノ後ニアルヘシ。

管子

管仲カ書ナリト傳フ。予其文ヲ見ルニ宛然タル古文辭
 ニテ。西漢以下ノ文ニアラス。然リトイヘ凡。管仲ハ齊ノ桓
 公ニ用ヒラレ。九匡ヲ勸メ。或ハ三歸反坫ノ事アリテ。古
 書ニアルヲ考レハ。管仲中々書數十卷アラハス。間暇ナ
 シ。書ヲ編シテ傳フル。閑人ノ上ノ事ナリ。然ラハ正シク
 後人ノ擬作ナレ凡。其文辭古ニシテ。經書ヲ解會スル
 ノ一助トナル。故ニ讀マシハアルヘカラス。予管子考ヲ編

ス。未其業ヲ卒ヘズ

晏子

晏子春秋六篇。コレ晏嬰齊ノ景公ニ事ヘ其君ヲ諫メ。
 其義ヲ說シ書ナリト云。予考ルニコレ又管子ト同日ノ
 所談ナリ。然レ凡文章簡雅ニシテ。古文辭ナリ。晏子名ハ
 嬰。諡メ平仲ト云。齊ノ靈公。莊公。景公ノ三世ヲ經仕ス。
 其言六經ノ旨ニ叶フアリ。讀マシハアルヘカラス。晏子春
 秋古今注書ナシ。予晏子考ヲ編セント欲ス。未其暇ヲ

得ス黄之案カ校本ヲ善トス。
 此他ニ墨子孔叢子ナト子類尤々多シ一々コレヲ辯スニ
 暇アラス右ニ標スルトコトハ學者ノ先ヨムベキ所ナリ用
 ユルノ子類コレニ限ルニ非ス刑法ニ韓非子アリ其文峻潔
 ナリ艱澁通曉シ難キ一少ナカラス予讀韓非子ヲ著シ
 其文ヲ略解ス知見ヲヒロムル爲ナレハ博ク學フヲ肝要
 ナリ世ノ理學者ノ如ク窠窟ニ入ルカ如キノ竿見ニテハ學
 問ハ成ラス凡聖人ノ道ヲ學フニ六經論語孝經等ノ經

書ヲ熟讀シテモ博ク天下ノ書ヲヨミ諸子百家ノ道ニ
 テモ明ラムルニ非スハ聖人ノ道ノ妙處ヲ悟ルヲ能ハス
 理學家ハ唯宋儒ノ註シタル四書五經ノミヲヨミ其
 外モ小學近思錄性理大全朱子語類ナトヲ論說シ
 テ一生ヲ過シテ一ツノ理ノ字ニ拘泥シ萬物ノ理ヲ窮
 メ盡サント孟浪ノ見識ニテ知レサルヲノミ穿鑿ス
 此ノ如クナレハ如何ノ古ノ聖人ノ道ニ達スルヲアヘン
 ヤ學者博ク學シテ取舍斟酌シ其古ヲ得テ道ニ進

ムヘシ猶子類ノ書ハ子類全書諸子彙函ナトニテ通
覽スヘシ煩ヲ厭フテ贅言セス初學ノ士其勉ムヨ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 史ニニ體アリ and 編年ナリ）

史要覽

總論

史ニニ體アリ。編年ナリ。紀傳ナリ。一時ノ事ヲ論ス
ルハ編年ニ如クハナシ。編年ハ左氏傳ヨリ始マル。一人
ノ終始ヲ記スルハ紀傳ニシクハナシ。紀傳ハ司馬遷ヨ
リ始マルナリ。史ハモト周礼ニ史官アリ。邦國四方ノ
事ヲ掌リ。四方ノ志ヲ達ス。諸侯ニモ亦各國史アリ。
史ハ官名ナリ。我邦ニモ古ハ諸州ニ國史ヲ置キ玉フ。

事ハ國史ニ見ヘタリ。其オコリハ履中天皇ニ始マリシト
カヤゾレヨリシテ盛ニナリ。菅原氏大江氏日野氏ナドハ
皆史官ノ家ナリキ故ニ我邦ニテモ六國史ナドアリテ。日
本ノ歴史ナリ。中華ノ史ハ春秋ヲ始メ。左氏穀梁公
羊ヨリ以下七一史アリ。コレヲ以テ觀ルトキハ其世々
ノ風俗民人ノ情意アキラカニシテ。コレヲ掌ニ矚ルカコトシ
コノ史ヲ讀ムニ六事アル。一呂成公祖謙人ニ教ユルコ
アリテ。微戒擇善閻範論事處事治體ノ六事ヲ分テリ

トキク。又唐書ノ藝文志ニ史錄二十三類アルヲ記ス。
正史編年偽史雜史起居注故事職官雜傳記儀注
刑法目錄譜牒地理ノ十三類アリト見ユ。コレヲノミ
拘ラス。唯歴史學ヲスルハ古ニ通センカ爲ナリ。經書ノミ
ヲ學ヒシ人ハ文字ノコナレナシ故ニ日本ノ學者ハ先詩文
章ノ學カ。殊ニ肝要ナリ。歴史ハ左傳國語史記前漢書
コノ四部ニヨク々熟スヘシゾレヨリシテ。六經モ自ラスメ
テユクヘシ。一代ニハ一代ノ制作アリ。世々ニツレテ。何カ

變化スルモノナリ。古今ノ變化スルヲ見ルニハ史ニア
 ラスシテハアタハス。ソノ史ヲ見ルハ必志ヲ見ルヘシ。志ハ誌
 ト通シテ。歴史ニハ皆誌アリ。前漢書二十志アリ。律歴
 志。禮樂志。刑法志。食貨志。郊祀志。天文志。五行志。地
 理志。溝洫志。藝文志。ノ十志アリ。續漢書ニハ志アリ。唐
 書二十二志アリ。イハユル史記ニハ書アルカ如シ。八書トハ
 禮書。樂書。律書。歷書。天官書。封禪書。河渠書。平準書
 ノハツナリ。コレ志ト同ク。其世ノ制ヲシルヒリ。志ハ正字

通ニ。凡史傳紀事之文曰志ト注セリ。其代々ノ制作ハ志ニ
 備ヘテアレハ。コレヲ以テ其世ヲ見ルヘシ。時變ノコトハリヲ知
 ラス。百世ヲ一定シテ。朱子通鑑綱目ノ如クニ論シテユカ
 ハ。史ハイラヌモノト知ルヘシ。廿一史ノ外ニ通鑑アリ。綱目
 アリ。十八史略。歴史綱鑑ナトアリ。コノ内ニ於テ。資治
 通鑑ハ。カキツバケニシテ。水滸漫トシテ讀ニクシ。ソレ凡治通
 鑑ヲ益アリトス。シカシ文章拙クシテ。感發スルヲ希ナリ。
 朱子カ綱目ハ。一字ノ褒貶ト云フヲ主トシテ。理窟メキ

テ實學ナシ。古今ノ間ニ人タル人ハ一人モナキヤウニ思ヒ
 アレモ貶シコレモ貶シ繩ニテ縛リタル如ク誠ニ無用ノ書ナ
 リ。又左氏ナトハ良史ノ筆ニテ事ノアリサハ今日目下ニ
 看ルカ如ク書キトリシニ面白クシテ事ノ情心ニウツリ
 感發ノ徳アリ。上古ノ餘風アリテ六經ヲ學フ為ニテ
 ルナリ。故ニ史學ハ必為スハアルヘカラス。先左國ヨリ始
 メテ廿一史ニ及フ。史記百三十卷。漢ノ司馬遷ノ撰フ
 トコロナリ。漢書百二十卷ハコレ後漢ノ班固カ著ス

トコロナリ。後漢書百三十卷ハコレ宋ノ范曄カ作ルト
 コロコレヲ三史ト云フ。コレヨリ三國志。晉書。宋書。南史。
 北史。南齊書。北齊書。魏書。隋書。陳書。周書。梁書。唐書。
 五代史。コレヲ十七史ト稱ス。コレニ宋史。遼史。金史。元
 史ヲ加ヘテ廿一史ト稱ス。以上千五百六十四卷ナ
 リ。コノ書ヲコトクク熟習スルニハ及ハス。只史漢ノ二
 部ヲヨクク習練スヘシ。蓋中華ノ史官トイヘルハ日本ノ
 官務大外記ノ家ニアタルヘシ。日本上古中古ノ事モ國

史ニヨラスニハ明ナラサルカ如シ故ニ日本紀ヨリ以下コレ
 ニ因テ時勢世變ヲ知ル古事記舊事記ナトモ亦爾
 リゾノ中古事記ハ其文古雅ニシテ誠ニ古書トモ稱ス
 ヘキナレバ舊事記ノ如キハ其文古事記ヨリ新ニシテ
 冗長ナルトコロアリコレ正シク後人ノ偽作スルトコロ
 ナリ日本記ノ点訣ハ後世ヨリカキイレシモノト知ルヘ
 シコノ事今用ナケレハ贅セス

左傳

此段 恐有 脱誤

春秋ニ三傳アリ左氏穀梁公羊ノ三傳ナリ其中左傳
 ヲ以テ最トス今春秋ヲ學シニハ左氏ヲ熟讀セスハアタ
 ハス二百四十二年ノ事實是非可否彰然トシテ掌ニ
 見ルカ如シ公羊穀梁ノ二傳ハ古書ナレバ穿鑿ノ義多
 シ春秋左氏ニハ祭祀軍旅ハ云ニ及ハス餘ノ大事聘シテ
 天子諸侯ヲ問フノ朝聘ヨリ重キハナシ故ニ春秋ヲ以テ
 名ツクルナリ春秋ヲ學ヘハ國政ノ善惡成敗君臣行事
 ノ得失天地ノ災祥變異國家治亂興廢自國ノミナラ

他國ノ事マテ。歴レトシテ明ラカニ見ユルユヘ。事レ變ニ達
 シ。知識モヒロクナリ。物ニアツテ疑レ惑スルヲナシ。コレ春秋
 ノ學フ益ナリ。春秋ハ國々ニアレ。孔子ハ魯人ニテ。本國ノ
 春秋ヲ修レシテ。世ニノコシ玉ヘルユヘニ。他ノ春秋ハ傳ハラス。
 魯ノ春秋ノ後世ニ傳ハレルナリ。春秋トハ俗ニ云ハ。日
 次帳ノ事ナリ。左氏ハコノ春秋ノ事實ヲ傳ヘ記セルヲ。
 孔子ノ譜ヲ作りテ修レメ玉フナリ。後世コレヲ經傳ト
 別ツ。アヤマリナルヘキカ。子夏ノ門人公羊高コレヲ記シ

傳ヘルヲ公羊傳ト云ヒ。穀梁赤カツタヘシヲ穀梁傳ト云
 フ。コノ三傳ヲ合セ考ヘ照映シテ事實ヲ觀ルヘシ。中ニ
 於テ。公穀ノ二傳ハ文甚ヨミマスシ。カラ勞レセ。左氏ハ
 其文簡古ニシテ重実ナルカユヘニ。甚ヨミ難クマ、カラ
 勞スルナリ。公穀ノ二傳ニモ。何休ハ范甯ノ注アリ。又疏モ
 アリ。コレニ考ヘ見ルヘシ。左氏ニハ。杜預カ注アリ。謬誤少
 カラストイヘ。又古ノ旨ヲ得タルトコロ多シ。其誤レルトコ
 ロハ。先儒モ杜注辨誤ト云ヘル書ヲ作りテ。コレヲ正シク

終身要覽 卷之十一 十一
セリ辨誤ノ中又妄說尤多シ初學ノ間ハ林堯叟ソウカ
注ニテコレヲヨクク熟シ杜注モ解シニクケレハ孔穎達エイダ
カ疏ニテコレヲ解スヘシ九十三家ニ熟習スレハ註解ハ
イラヌコトナレバ已ムコトヲ得スハ上ニイヘル書疏ヲ以テ
解會スヘシ左氏ヲヨムニハ文法ヲ知ラスシテハ理會ナ
リ難シ左氏ハ左氏ニテ一家ノ文法アリ左氏練要左傳
明文ナト云ル書モアレバ率本船來ノ書ナレハ希ナリ其
練要明文モ又亦支離シセシトコロ多ク唯ヨクコノ方

ノ眼カ活具ツグナラ子ハ其法ハ見ヘカタシ文法サヘ見ユルトキ
ニハ其旨ハ自然ト分別シテ解セラルハナリ其事文畧
及翰墨事略ニ悉ク辨セリ故ニ今テ記セス左氏傳ハ
魯ノ左史ノ作ニシテ左丘明ノ作ニハアラス論語ニ左
丘明耻之丘亦耻之ラトアルヲ見ルトキハ孔子ヨリ先
輩ナルヲ明ナリト云ヒ又左丘ハ姓ニテ明ハ名ナリ故
ニ左氏傳ノ作ハ異ナリナト唐儒明儒ナト諸說ニ
テクニタタシトイヘ氏皆古意ヲ得サル胡說ナリイカ

ントナレハゴレ經傳トワカツヨリコノ誤アリ其辯予曾
テ春秋ノ論一篇ヲ著ハシテソノ事ヲ議セリ唯一ト口ニ
テ解セハ春秋ハ左傳ノ目錄ナリト知ヘキナリ温公カ
通鑑ニ朱子カ綱目アルカ如シ

國語

左氏傳ハ魯國ノ事ノミヲ主トシテ記シ諸邦ノ事ヲ審
ニセス故ニ外ニ國語ヲ編作シテ他邦ノ事實ヲ詳ニ記
シ以テ左氏傳ト照映シテ事ヲ委シクセン為ナリ左丘

明疾テ目旨テ後ニゴレラ著ハスユヘニ旨史ト稱スルヲナリ
又春秋傳ハ魯ノ史ナレハ内傳トシ國語ハ晉楚ヲ始メ
諸侯ノ國ノ事ヲ記シテコレヲ外傳トモ云ナリコレモ亦
左氏カ編セシ書ニテ文章洞微ニシテ玄奧云フ方ナシ
實ニ文章ノ規矩ニシテ熟習セスハアルヘカラス國語ニ
ハ韋昭カ註ノ外イマタ他注ヲ見スアリトイフトモ皆
齒及スルニ足サルノ書ナリ儲韋昭カ注ハ弱年ノ作
ナルユヘカ以安說畧コレアリ故ニコレラ古書ノ中ニ徵証

シテ考へ見ルヘシ文字ニ又異同アリ。李九我本盧氏
カ本ナトニ考ヘテ善ナルニ從フヘシタトハ以義死用トアル
ヲ李カ本ニハ以義死國ト作レリ。韋昭カ注モ古意ナルトコ
ロ多ク古文辞ヲ解シ得タル處少カラス。周語ノ中ニ水
師監濯膳宰致餐廩人獻餼トアル注ニ生曰餼禾米
也ト注セリ。コノ說解セスト云テ禾米ハ牛羊ノ誤ナルカ
但ハ韋昭カ心得タカヒトイロクト諸家ニテ議スレ氏皆
古文辞ヲシラヌヘナリ。廩人ハ米ヲ掌ル官人ニテ御蔵

米ノ奉行ナリ。左傳ニ秦伯又餼之粟トアリ。故ニ韋昭
カ禾米也ト注セシハ証アリトス。又周語ニ况爾小醜トコ
ノ小醜トアルハ賤者ヲ云ナリ。下ノ俊卿ト云フニ對シテ
言ヘル言ニテ周語ノ下篇ニ考レハワカルナリ。韋昭ノ注
ニテ了クナラス故ニ十三家ニ周子カラ子ハ古書ハスメヌ
ナリ。古書カスミ子ハ六經ハナカクワカラヌト思フヘシ
史記
史記ノ制ハ五帝ヨリ始リテ漢ノ代ニテ述傳ヘタリ。

コレ紀傳ノ始ナリ。三皇ハ後人コレヲ補ヒシナリ。凡史
 記ヲヨムハ其代ノ制作ヲ考ヘシ為ナリ。秦漢以後聖
 人ト云モノハ出玉ハ又故ニ聖人ノ制作アリシ禮樂ヲ學
 フガ。古道ヲ學フト云モノナリ。然レ凡制ハ代々ニツレテ
 異ナリ。秦漢ニハ秦漢ノ制作アレ凡聖人ノ如クナルヲ能
 ハス。サレ凡秦漢ナレハ秦漢ノ制ヲトクト知ラス。ハ古ノ制
 作ハワカラヌナリ。故ニ史記ヲヨムハ先ハ書ヲ熟讀スル
 ナリ。ソレヨリ本紀世家列傳トツ、キテ熟味スヘシ。

史記ニモ索隱正義ナドイロクト諸注アリトイヘ凡
 姑^カラクカノ^カ詁ニヨリテ他ノ古書ニ映^クシテ考フヘシ。堯
 舜ノ本紀ヲヨムハ書經ノ二典ト引アハセテ是非得失
 ヲ考ヘ湯武ノ本紀モ亦ツノ如シ。書經ニツイテ考ヘソレ
 ヨリ世家ニ及ヒテハコレヲ戰國策ナトニテ引アハセ考
 ルナリ。戰國策ハ左氏傳ノ後篇ニシテ史記ノ本書ナリ。
 故ニ戰國策ヲヨク^ク熟^ク習^クシテ史記ヲヨムトキハ殊ニ易
 易トシテムワカシカラス。ソレヨリ他ノ古書韓嬰^カカ内傳

外傳劉向カ新序說苑西京雜記サテハ國語家語呂氏
 春秋晏子春秋管子墨子サテハ莊子列子ノ類淮南韓
 非孔叢ノ書籍ヲホツクトヨミユケハ彼ニテ是カワカリ
 此ニテ彼カワカリテ史記漢書トテムツカシキモノニテハ
 サラクナシ讀ミユクウチニヌメ又所アラハソレナリニ打ステテ
 奥ヘヨミユケハ他ノ所ニテワカルモノナリ。儲茅鹿門主
 兪州徐仲行ナトカ文ノ評ニ心ヲツケテ見ルヘシ文章ノ
 爲ニナルト多クアルナリ。ハ書ハオモシロカラヌモノユヘタ多ク

ノ人ミナ擺撥シテヨマス。然レモ必ヨムヘキ者ナリ。禮記呂氏
 淮南ナドニテヨクク考ヘ合セテ其物ヲ知ルヘキナリ。又
 本紀ニ至リテモ一ヘニ辨スルカ如ク堯本紀ニ類上帝禮
 六宗望山川辨群神ナトハ書經ノ文ト同シク文字異
 同アルノミナリ。故ニ孔安國カ詁ニテハヨク分別スルナリ。ス
 ヘテ史記ノミニアラス。書ヲヨムノ心得カクノ如クナリ。ハ
 漢書

班固字孟堅前漢書ヲ作ル其制司馬遷カ史記ニナラ

ヒテ。以テ其後ヲ繼ギシモノナリ。前漢高帝ヨリ。後漢光武帝一テノ事故ヲ記シタリ。其撰述半ナルニ。班固卒シテ。其半ハ其女コレヲ作レルトカヤ。モツトモ史記ヨリハ文章スコシ劣リタリトイヘ。又其美藻ナルヲ。諸史ノ及フトコロニアラス。註家ニタ多シトイヘ。唐ノ顔師古カ注尤勝レタリトス。其看法史記ト同シコレヲ前ノ諸書ニ引合セテ考ヘ見ルヘシ。

歴史ハ左國史漢ノミニ非ストイヘ。予十三家ト稱シ用

ユルトコロナリ。其他史多シ後漢書三國志晉書ナトヨマスシハアルヘカラス。然レモコレヲ看ルノ法。此四部ヲ看ルト同シ。其世ノ諸書ニ徴シテ見レハ條理ハワカル者ナリ。此他ノ前漢以上ノ書ハ皆熟習スヘシ。詳ナルヲハ子要覽ニ述ルカ如シ。猶歷代ノ事略ハ十八史略ナトニテ周覽スヘシ。歷代帝王世紀之圖ト云モノ一紙アリ。三皇五帝ヨリ。今清朝マテノ歷世ヲ系譜ニシタル書ナリ。コレニテ見ルヘシ。學問ヲナス者ハ歷世ノ事ヲ悉ク知ラスシテハ定見

ト云モノナシ。故ニ人情風儀時勢ヲトリチカヘテ。支離スル
 一多シ。故ニ歴史學ヲスルコトナリ。且說苑家語國策莊
 子列子ナトモ。智見ヲ弘ムルタメ。博ク學フコト肝要ナ
 リ。孔子モ博學無方ト仰ラレタリ。故ニ初學ノ人。經書ハ
 古注。歴史ハ左國史漢。文章ハ楚辭文選。韓柳李王。總
 シテ漢以前ノ書ハ。何ニヨラス人ノ智見ヲニス之我邦モ古ハ
 皆古注ヲ玩モトメヒ之學令曰。凡教授正業。周易鄭玄王弼
 註尚書。孔安國鄭玄註。三禮毛詩。鄭玄註。左傳服虔

杜預註。孝經。孔安國鄭玄註。論語。鄭玄何晏注ト云ヘ
 ル。古ヘノ令書ニ見ヘタリ。其中ニ孟子ヲ云ハス。延喜大
 學寮式ニモ。孟子ノイヲ云ハス。我邦モ古ハ孟子ヲ玩モトメヒテ
 見ヘタリ。後醍醐帝ヨリ以後。徐シヨクニ新注ワタリテ。獨
 清軒健叟始メテ宋學ヲ唱ヘテコノカタ。終ニ其學大ニ
 行ハレ。古學タヘントス。碩學鴻才ノ士。性理ノ窠窟ニ入リテ。
 文學方ニ泯ヒシタルニ庶シ。悲シムヘキノ至リナラスヤ。予志
 ラオコシテ。復古ノ業ライサナヒ。以テ旨庸ノ徒ヲシテ始

メテ明ラカナル大道ニ導ント欲ス故ニ愚蒙ノ俗辯ヲ馳
 テ經子史ノ看法ヲ示ス猶集類ノ事ハ翰墨事略ニ示
 ス今ハ贅セスト云

經子史要覽卷之下終

附錄徂徠先生書牘一首

不佞學古文辭者十年矣乃稍稍知有古言也漢儒
 距孔子時未遠是以徃徃不失古意六朝雖靡乎亦
 猶古意遺焉至唐韓愈出而文章之道一變宋儒遂
 以今言視古言聖人之道所以不明也學者苟能讀
 秦漢以前之書而有識古言則六經論語何假注解
 也古言明而後古義可得而言焉古義明而古聖人
 之道如眎諸掌焉古之教詩書禮樂而已矣詩書者

附錄往復書牘
義之府也。禮樂者，德之則也。書所載，即先王之訓。而古義存焉。詩猶後世之詩，宋儒以爲勸善懲惡，其說至於諸淫詩而窮矣。蓋詩道人情，非詩則不能識人情焉。故學詩而後書之義，神明變化，故曰義之府也。禮以制心而樂以其所樂導之，德之所以成也。故曰德之則也。詩書禮樂，先王之妙術，其教各殊。君子學之，以成其德。材小者小成，材大者大成，亦不自覺其然。故曰君子之教如時雨化之。宋儒汨沒是非，海

裏故於四經皆作一樣解，所以失也。論語多不記孔子所以言之意，故後儒不得其說矣。且孔子時學問專在禮，後世外禮而解論語，豈得其意乎？作論語徵十卷，大學者養老禮之義也。如冠禮有冠義，昏禮有昏義，後世以爲學問之法，非也。三綱領八條目，皆朱子所剗造，不可從矣。仁齋不識古文辭，故以大學爲非聖人之意，均失之矣。中庸孟子皆張孔子之教，以與諸子百家爭者也。先王孔子之道，於是乎降而爲

附錄目錄書片
儒者之道豈不卑乎。後儒皆據孟子以解論語。所以失也。且子思孟子時古言未亾。而後儒之解皆誤矣。作大學中庸解各一卷。孟子識七卷。凡所謂道德仁知禮義恭敬性命心情明德中庸元亨利貞之類。後世皆失其字義。亦不知古言故也。作辨名一卷。道也者。不可以一言而盡之矣。後世四經之教不明矣。故後儒之以爲道者。非先王孔子之道焉。作論道一卷。不佞疾久不瘥。恐一旦溘朝露以沒也。故疾少間。援

筆著之篇。矻矻不已。其書垂成。但校讎未終功。是在二三子耳。嗚呼。孔子沒而千有餘年。道至今日而始明焉。豈不佞之力哉。天之命之也。不佞藉是而死。不朽矣。是不佞雖疾不疾。樂以忘憂者爲爾。其書行當刊行於世。然非歷數年。亦不能畢已。一二年間。足下或能來歟。是未可期也。故言其大槩。以相示已。不盡

物茂卿

徂徠先生書牘真蹟。吾友加子慶所摹刻于昭

曠館者是也。而其書不錄，所與名氏，子慶謂縣次公蓋其人也。想當然耳。其所論乃先生一世事業，具于此矣。後進之景仰先生之學者，不可不讀焉。但本集不載，為可惜矣。嚮子慶雖摹刻而傳焉，世未甚知之。故予附錄其文于此，以公于世。庶補文集之逸已。

甲子春

森直識

附錄終

文化紀元甲子孟夏望

心憂館藏版



